

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1492600299
法人名	有限会社 健康医学開発センター
事業所名	グループホーム憩
訪問調査日	令和6年12月18日
評価確定日	令和7年6月2日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600299	事業の開始年月日	平成22年12月1日	
		指定年月日	平成22年12月1日	
法人名	有限会社 健康医学開発センター			
事業所名	グループホーム憩			
所在地	(252-0231) 神奈川県相模原市中央区相模原6-25-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和6年12月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出やレクリエーション活動の頻度を増やし、コロナ前と比べても遜色ないサービスを提供している。
入居者様の

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和6年12月18日	評価機関 評価決定日	令和7年6月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は有限会社健康医学開発センターの経営です。法人は、経営コンサルタント業務、医療事務受託業務、介護事業を展開しています。介護事業においては、住宅型有料老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、高齢者グループホーム、通所介護、訪問介護、居宅介護支援センターなど、多岐に亘る高齢者福祉事業を展開しています。ここ「グループホーム憩」はJR横浜線「相模原駅」南口より徒歩10分程の駅からもアクセスしやすい立地にあります。周辺には、相模原市役所、相模原警察署などの中枢機関、神奈川名所100選の桜並木通りもあり、花見の名所として春には多くの人々が訪れる場所でもあります。

●事業所では、昨年12月から「見守りライフ」を導入し、ベッドからの「転倒・転落のリスク低減」と居室の見える化による「職員の負担軽減」によって、「介護の生産性向上」と「介護の質向上」を図っています。見守りライフを導入したことで、ベッドでの動き出し、起き上がり、端座位等の動作をいち早く検知することが出来るようになる等、より安全性の高いサービスを提供できるよう努めています。

●職員の質向上に向けた取り組みでは、「ジョブメドレーアカデミー」を活用した動画研修(年間で19項目)、研修委員会を中心とした集合研修、外部研修にも参加しながら、介護知識や介護技術習得の研鑽を図っています。身体拘束や虐待等の不適切ケアについても、3ヶ月に1回の「身体拘束・虐待防止委員会」の中でフロアごとの現状や事例についての検討、30項目からなる自己点検、研修後にアンケート調査を実施し、集計及び分析結果を職員に共有して、不適切ケア防止に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム憩
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に職員全員でホームの理念、職員の理念を作成した。理念は玄関に掲示し、いつでも確認することができる。	開設時に作成された理念「共存・共生・あなたがいて、私たちがいる…」と6項目からなる「職員の誓い」を玄関に掲げています。理念や誓いについて、読み合わせ等を行うことはありませんが、その時々を「安心、楽しく」過ごしていただけるよう、レクや外出支援を企画しながらケアを行っています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通じて地域の情報を得ることができている。地域の運動会、行事への参加も行っている。西門商店街への買い物は毎日のように行い、利用者の顔を見れば施設を思い出してもらえるようになってきている。	自治会から回ってくる回覧板を通じて地域の情報を入手しています。以前は事業所から直ぐの西門商店街へ利用者と一緒に買い物に行っていました。が、営業している商店も減少した為、商店との交流は皆無の状態になっています。自治会のイベント参加は継続しており、近くの就労活動支援事業所との交流を検討しています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に買い物に行くことで、認知症高齢者に接する機会を作り出している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行事に合わせて開催することで、家族の参加人数は前年度に比べ多少増加している。	2ヶ月に1回の土日開催として、地域住民、地域包括支援センターに参加いただいています。事業所の現状、活動状況報告を中心に、地域の情報をいただくようにしています。行事と合わせて開催する等の工夫をしながら、家族の参加を増やせるようにしており、家族の参加率も上昇しています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、中央区福祉事務所と書類は可能な限り窓口まで直接届けることにしている。行政からの相談ケースを受け入れ、その後も連携をとっている。	相模原市介護保険課、中央区福祉事務所の担当者と顔の見える関係性を構築する為にも、極力窓口に行くように心がけています。運営や手続きに関することで不明点があれば、福祉基盤課に電話もしくはメールで問い合わせています。グループホーム連絡会にも参加し、他の事業所とも情報共有に努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	早朝、夜間は防犯上施錠しているが、日中居室、リビングの窓はいつでも開け閉めができ、ベランダへの出入りは自由である。エレベーターホールへの扉には鍵はあるが基本的に施錠していない。	身体拘束等適正化のための指針、マニュアルを整備し、いつでも閲覧できるよう事務所に置いています。3ヶ月に1回の「身体拘束・虐待防止委員会」の中でフロアごとの現状や事例についての検討、30項目からなる自己点検、研修後にアンケート調査を実施し、集計及び分析結果を職員に共有して、不適切ケア防止に取り組んでいます。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、常に観覧できる。身体拘束・虐待防止委員会を中心としてチェックシートの活用、研修などを実施している。	高齢者虐待防止のための指針、マニュアルを整備し、いつでも閲覧できるよう事務所に置いています。3ヶ月に1回の「身体拘束・虐待防止委員会」の中でフロアごとの現状や事例についての検討、30項目からなる自己点検、研修後にアンケート調査を実施し、集計及び分析結果を職員に共有して、不適切ケア防止に取り組んでいます。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により成年後見制度について学び、資料は事務所に保管している。必要性を職員間で話し合い、キーパーソンが知人の利用者に対して制度の利用を提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、疑問点がないかを確認し、その上で契約、解約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。	入居契約時に重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について説明し、苦情連絡先を周知しています。玄関に意見箱を設置していますが、来訪時、電話、LINE等で何うようにしています。利用者からは、日々の関わりの中で把握するように努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の会話より意見、提案の聞き取りを行っている。	職員の意見や提案は、ユニット会議や、全体会議の中で聴く機会を設けています。会議の内容は会議録、決定事項は連絡ノートにも記入し、全職員に周知徹底を図っています。管理者は職員の自主性を尊重し、ケア、レク、業務内容は職員間で話し合ってもらうようにし、判断に迷った時や、決定事項の報告を受ける体制を取っています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、給料に反映している。加算の取得により手当の支給等を行っている。	年に1回は職員との個別面談を実施し、評価表による自己評価と個人目標について話し合った結果が賞与に反映されるようになっています。事業所では毎年新年会を開催し、職員間の親睦を深めており、職員の定着や関係構築にも繋がっています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務内、ミーティング、必要に応じて外部研修を通じ職員のスキルアップに取り組んでいる。ジョブメドレーアカデミーを利用して通年の研修計画を作成・実施している。	新入職員の教育は、先輩職員によるOJT形式で実施しています。勤務終了後には振り返りと、次回目標を記入し、指導者にも実践したこと、コメントを記入し、ファイルに綴じて管理しています。研修については、「ジョブメドレーアカデミー」を活用した動画研修(年間で19項目)、研修委員会を中心とした集合研修、外部研修にも参加しながら、介護知識や介護技術習得の研鑽を図っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームへ見学、研修に行き、他事業所から改善点を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望を含め話を聞き、本人との信頼関係が取れ、安心して生活が送れるよう職員全員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いは、ホームの見学、説明時にゆっくり時間をかけて伺うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談後、管理者、主任で協議をし、必要な支援が受けられるように協力医療機関に話し合いをしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、職員共に家族の一員として話をしている。個々の趣味や経験してきたことの知識を共に行動していけるよう傾聴している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を画像や動画をLINEを使用して報告している。利用者、家族と一緒に参加出来る行事も行っている。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所にはなかなか出かけることはできていないが、知人には気兼ねなくホームに来て頂いている。	現在は面会制限なく、自由に面会していただいています。手紙や年賀状のやり取りを継続している方、家族、友人、知人が面会に来られる方もおり、入居以前からの関係性を継続している方もいます。要望があれば、事業所の電話で連絡を取れるようにも支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性などを考え友達作りを支援している。孤立しがちな方には、職員が入り配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居した方に対して、協力医療機関から診療情報提供書を依頼、家族へ届ける等、支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や様子などで、本人がどのようなことを希望されているかを汲み取るようにしている。	入居前面談で本人、家族、介護支援専門員等から聴き取りを行い、アセスメントシートを作成しています。入居後は事前に得られている情報を基に日々の会話や表情から、現状の思いや意向の把握に努めています。本人からの言葉、職員の働きかけに対する反応は介護記録に残し、会議で検討するなどしながら、実現できるよう支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、業務日誌の記入等で一人一人の変化を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き、ミーティングや毎日の記録から支援すべき課題を明確にしている。	入居後1週間は、アセスメントの情報を基に作成した介護計画書にて様子を見ながら、事前に得ている情報と齟齬が生じて無いか等、情報を収集しています。1ヶ月を目安にモニタリングを開催して、介護計画の内容と本人の状態におけるアセスメントを行い、介護計画を更新しています。短期は3ヶ月、長期は半年での見直しを基本としていますが、状態の変化に応じて都度見直しを行っています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録やミーティングでの意見を基に計画を見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関とは毎日連絡を取り、必要に応じて受診の付き添いなど、出来る範囲でその時のニーズに対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地域の清掃等に参加している。			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診。必要に応じて通院支援を行っている。	入居時には、事業所の協力医療機関について説明し、本人や家族の意向を踏まえて主治医を決めていただいています。現在は、全員が協力医療機関の訪問診療を月2回受けています。看護師も同クリニックから週1回の訪問があり、健康管理や、職員の医療相談に対応しています。歯科は、月3回の訪問診療で、口腔ケアや、必要に応じて治療等を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ心身の状態を報告し、情報の共有化を行い、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と連絡を取り、可能であれば、医師との病状説明にも同行させて頂いています。医療連携室の相談員とも連絡を取っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のケア方針について説明を行っている。終末期の対応は家族、協力医療機関の医師、看護師、ホームの職員により今後の方針を共有し対応している。	事業所では看取りまで行う方針であり、今年度は2名の方を看取った実績もあります。入居契約時には「重度化や終末期の指針」に沿って説明し、延命措置や救急搬送も含めて意向を確認しています。終末期を迎えた際には、主治医から家族に説明していただき、職員も同席するようにしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会にて緊急対応マニュアルの勉強をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、訓練を行っている。地域の方との協力体制構築は今後の課題である。	年2回の防災訓練では、消防の立ち合いはなく、計画書及び実施報告書を提出しています。通報訓練・消火訓練・避難誘導訓練を中心に、火災・地震想定で、参加できる利用者も一緒に実施しています。BCPの対応に合わせて書類作成や、備蓄品として水・アルファ米・カンパン等と、ヘルメットや、懐中電灯・衛生用品等用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や状況に応じて声掛けを行っている。	事業所の理念にも「傾聴・受容・共感」という言葉が盛り込まれており、利用者一人ひとりの生活歴、生育環境、性格等を受容し、傾聴や共感する姿勢を大切にしたいケアを心がけています。言葉がけにおいても、決してぞんざいにならない発言を意識した声かけを行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴、表情から希望を汲み取り、自己決定できるよう努めている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、本人のペースに合わせた暮らしを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、乳液、化粧水など一緒に買いに行っている。美容院、床屋にも職員と一緒に通っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、食器洗い、食器拭き等出来る方には手伝って頂いている。時には出前や外食を取り入れ、楽しんで食事を摂取できるよう支援している。	朝食、夕食は、配食業者に発注して提供していません。昼食は、近所の商店街の八百屋や、スーパーで食材を買い物しています。調理は、職員が行い、出来る方には野菜の下拵えや、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭きなど手伝っていただいています。誕生日や、行事の際は、希望を聴き出前をしたり外食に出かけています。ホットプレートを利用して焼きそば、餃子、焼き鳥など調理して楽しんでいます。相撲中継の時期には、食事時間を前倒しにするなどの工夫もしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事、水分量を準備し、摂取量を記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後声掛けにより歯磨きをしている。義歯は夜間洗浄している。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握できるよう努めている。職員間の情報の共有化にて日々の変化に対応している。	利用者全員の排泄状態を、チェック表に記録して、個々の排泄パターンを把握しています。昼夜ともに、排泄パターンに合わせて声掛けや、トイレ誘導を行っていますが、夜間の場合は、睡眠を優先にした支援も実施しています。失敗を減らすためにパット交換のタイミングなど、居室担当者と介護支援専門員で協力して対応方法を決め、職員に徹底しています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に排便状況を記入し、水分や内服薬の調整を行っている。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の意向に考慮して入浴できるようにしている。入浴時間は午前、午後特に決めていない。	週2,3回の入浴を基本とし、入浴日も予め決めています。当日朝の声かけ時に、本人の意向を確認したうえで、無理強いしないように対応しています。2階ユニットの浴槽にはリフトが組み込まれ、3階ユニットの方が利用する場合があります。入浴後は保湿クリームの塗布や水分補給を行っていただき、乾燥や脱水にも留意しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望や状態でベッドで休んでもらっている。夜間は記録にて個々の睡眠状況を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋は職員がいつでも確認できるようになっている。服薬に変更があったときは、申し送りにて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きなことを理解して、その方に合った事を行って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望や意見を聞き、出来る限りの範囲で外出ができるよう支援している。	天気や気候の良い日には、体調に配慮しながら個人の希望や、意見を聞き、散歩や買い物に出かけられるよう支援しています。桜の季節には、直ぐ前の桜並木を毎日のように散歩しています。ドライブでは、相模原市博物館・相模原公園・田名北水族館等へお連れしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾のもとで自己管理している方もいる。自己管理ができない方も、買い物にはなるべく一緒に出掛け、自分で買い物ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方には電話や手紙、リモート面会でコミュニケーションが取れるよう支援している。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や「掲示物を飾っている。リビングは整理整頓を行い、皆でくつろげるようにしている。温度、湿度の確認を行い、エアコンや加湿器で調整している。	リビングは採光を取り入れやすいよう、大きな窓が取り付けられており、明るい空間になっています。1フロアではメダカを飼育しており、利用者の癒しになっています。ユニットごとに季節の生花や、行事の貼り絵などを飾り、季節感を演出しています。利用者の安全を確保する為、常に整理整頓を心がけ、動線の確保も意識しています。居室前の廊下や、リビングには監視カメラも設置されています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの配席は職員が入居者様の様子に合わせて席替えをお行っている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人の使い慣れたものを持参して頂けるよう、ご家族様にお話ししている。	各居室にはエアコン、クローゼット、照明が完備されています。安心して過ごしていただけるよう、家具や寝具などは使い慣れた物や、好きな色の物を持ち込んでくださると伝えており、居室にはテレビ、椅子、仏壇、冷蔵庫など各々に持ち込まれています。居室の整理・整頓や週2回のリネン交換は、職員が行っています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の基本動作を把握し、エレベーターや階段を利用したり、自分の居室がわからない方には、目印を付ける等支援している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム憩

作成日

令和7年6月2日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の人数が増えない	参加人数を増やし、家族様からの意見を取り入れた業務改善を行う	開催告知の際に具体的な内容を提示し、参加することに対し興味を持ってもらう	1年
2	13	研修等の参加率にばらつきがあり、職員全体のスキルが向上しない	常勤を中心にまんべんなく研修に参加してもらう	研修員会の活動を定期的に行い、事業所内での研修を増やす。外部の研修参加はローテーションで回して参加させる	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム憩
ユニット名	ひのき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に職員全員でホームの理念、職員の理念を作成した。理念は玄関に掲示し、いつでも確認することができる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通じて地域の情報を得ることができている。地域の運動会、行事への参加も行っている。西門商店街への買い物は毎日のように行い、利用者の顔を見れば施設を思い出してもらえるようになってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に買い物に行くことで、認知症高齢者に接する機会を作り出している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行事に合わせて開催することで、家族の参加人数は前年度に比べ多少増加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、中央区福祉事務所と書類は可能な限り窓口まで直接届けることにしている。行政からの相談ケースを受け入れ、その後も連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	早朝、夜間は防犯上施錠しているが、日中居室、リビングの窓はいつでも開け閉めができ、ベランダへの出入りは自由である。エレベーターホールへの扉には鍵はあるが基本的に施錠していない。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、常に観覧できる。身体拘束・虐待防止委員会を中心としてチェックシートの活用、研修などを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により成年後見制度について学び、資料は事務所に保管している。必要性を職員間で話し合い、キーパーソンが知人の利用者に対して制度の利用を提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、疑問点がないかを確認し、その上で契約、解約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の会話より意見、提案の聞き取りを行っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、給料に反映している。加算の取得により手当の支給等を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務内、ミーティング、必要に応じて外部研修を通じ職員のスキルアップに取り組んでいる。ジョブメドレーアカデミーを利用して通年の研修計画を作成・実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームへ見学、研修に行き、他事業所から改善点を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望を含め話を聞き、本人との信頼関係が取れ、安心して生活が送れるよう職員全員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いは、ホームの見学、説明時にゆっくり時間をかけて伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談後、管理者、主任で協議をし、必要な支援が受けられるように協力医療機関に話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、職員共に家族の一員として話をしている。個々の趣味や経験してきたことの知識を共に行動していけるよう傾聴している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を画像や動画をLINEを使用して報告している。利用者、家族と一緒に参加出来る行事も行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所にはなかなか出かけることはできていないが、知人には気兼ねなくホームに来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性などを考え友達作りを支援している。孤立しがちな方には、職員が入り配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居した方に対して、協力医療機関から診療情報提供書を依頼、家族へ届ける等、支援を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や様子などで、本人がどのようなことを希望されているかを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、業務日誌の記入等で一人一人の変化を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き、ミーティングや毎日の記録から支援すべき課題を明確にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録やミーティングでの意見を基に計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関とは毎日連絡を取り、必要に応じて受診の付き添いなど、出来る範囲でその時のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地域の清掃等に参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診。必要に応じて通院支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ心身の状態を報告し、情報の共有化を行い、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と連絡を取り、可能であれば、医師との病状説明にも同行させて頂いています。医療連携室の相談員とも連絡を取っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のケア方針について説明を行っている。終末期の対応は家族、協力医療機関の医師、看護師、ホームの職員により今後の方針を共有し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会にて緊急対応マニュアルの勉強をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、訓練を行っている。地域の方との協力体制構築は今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や状況に応じて声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴、表情から希望を汲み取り、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、本人のペースに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、乳液、化粧水など一緒に買いに行っている。美容院、床屋にも職員と一緒に通っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、食器洗い、食器拭き等出来る方には手伝って頂いている。時には出前や外食を取り入れ、楽しんで食事を摂取できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事、水分量を準備し、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後声掛けにより歯磨きをしている。義歯は夜間洗浄している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握できるよう努めている。職員間の情報の共有化にて日々の変化に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に排便状況を記入し、水分や内服薬の調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の意向に考慮して入浴できるようにしている。入浴時間は午前、午後特に決めていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望や状態でベッドで休んでもらっている。夜間は記録にて個々の睡眠状況を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋は職員がいつでも確認できるようになっている。服薬に変更があったときは、申し送りにて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きなことを理解して、その方に合った事を行って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望や意見を聞き、出来る限りの範囲で外出ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾のもとで自己管理している方もいる。自己管理ができない方も、買い物にはなるべく一緒に出掛け、自分で買い物ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方には電話や手紙、リモート面会でコミュニケーションが取れるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や「掲示物を飾っている。リビングは整理整頓を行い、皆でくつろげるようにしている。温度、湿度の確認を行い、エアコンや加湿器で調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの配席は職員が入居者の様子に合わせて席替えをお行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人の使い慣れたものを持参して頂けるよう、ご家族様にお話ししている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の基本動作を把握し、エレベーターや階段を利用したり、自分の居室がわからない方には、目印を付ける等支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム憩

作成日

令和7年6月2日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の人数が増えない	参加人数を増やし、家族様からの意見を取り入れた業務改善を行う	開催告知の際に具体的な内容を提示し、参加することに対し興味を持ってもらう	1年
2	13	研修等の参加率にばらつきがあり、職員全体のスキルが向上しない	常勤を中心にまんべんなく研修に参加してもらう	研修員会の活動を定期的に行い、事業所内での研修を増やす。外部の研修参加はローテーションで回して参加させる	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。